

藝文だより

第38号

令和3年3月15日
村山市芸術文化協議会
題字/齋藤 湖舟



待ち望んだ発表会（北村山吹奏楽団）



マウスシールドをつけて（劇団赤ひげ）

暗闇にも一筋の光、 芸術文化の灯りは消えず

村山市芸術文化協議会会長 軽部 栄子

毎年秋には黄金色に染まる自慢の美しい田んぼが、一晩にして大きな水害に見舞われました。全く思いもよらなかったことで、被害を受けられた方は昨日までの穏やかな暮らしが一変し、大変な思いをされたものと思います。私達は今、新型コロナウイルス

ルスとの闘いの真つ只中です。誰もが経験したことのない恐ろしい感染症が現実起こっています。感染を防ぐため、思うように身動きをとることもできません。そのような中で、第五十六回の村山市芸術祭は開催できないのではないかと思っておりましたが、村山市大正琴連盟・北村山吹奏楽団・松舞踊村山塾・劇団赤ひげなど七団体が、感染症対策として様々な知恵と工夫を施し、今回の芸術祭に参加してくださいました。ご尽力いただいた各団体の皆様とご来場いただいたすべてのお客様へ、改めて感謝申し上げます。最初の感染者確認から一年が経過した今でも、私達は暗闇の中を歩いているようです。しかしながら、先の見えない時だからこそ、芸術文化の灯りを消してはならないという思いも強く抱いております。次の第五十七回村山市芸術祭は、二年分の思いとともに有意義に開催できることを心から願っております。

第56回 村山市芸術祭

生演奏のチカラ

北村山吹奏楽団 岡村 浩明

本番当日まで、これほど不安が続いた演奏会はありませんでした。その理由は、新型コロナウイルス感染症による練習の自粛です。

昨年三月末の県内初の新型コロナウイルス感染者にはじまり、緊急事態宣言の発令と続き、当然、活動は自粛となりました。二か月程度練習できない日々が続いたのは、初めての経験です。東日本大震災のときも自粛がありました。が、「演奏で元気を届けよう」と取り組むことができませんでした。しかし、今回はそうはいきません。人が集うことができないため、練習どころではありません。再開後も、感染の拡大等により何度となく自粛を繰り返し、演奏したい気持ちは何度も折れそうにな

りました。

ようやく訪れた一年ぶりの演奏会。近隣で感染者が確認されたら中止と考えていただけに、無事に迎えた当日は嬉しいの一言です。今年度は、春の演奏会や大会などすべてが中止となったため、喜びもひとしおです。しかも、例年以上にたくさんご来場いただき、帰り際には「生演奏は違うね、感動したよ」と嬉しい言葉をたくさんいただきました。「自粛疲れを演奏で癒したい」と練習してきただけに、この言葉は最高のご褒美です。練習不足を取り戻すための基礎合奏に時間を費やし、個々の技術よりも全員で今できることを努力してきました。その成果もあり、サウンドがこれまで以上に一体感のあるも



苦境に負けないハーモニー『秋のコンサート』

のとなりました。これも、団員一人ひとりの「演奏したい」という強い思いがあったからこそ。やはり、団員が集い、お客さまがいる生演奏こそ音楽の楽しさなのです。今回の演奏会は、生演奏のチカラをあらためて実感した素晴らしい経験となりました。

コロナ禍に屈せず演奏会を終える

村山市大正琴連盟 井澤 主子

全世界に拡散した新型コロナウイルスで、大きなイベントの中止が次々に報じられ、「演奏会は中止だ」と私達も思っていました。

そうした中、会場である村山市民会館は、会場使用要件を全てクリアすれば使用可能であると知らされました……が、自粛の声も聞かれました。しかしし年を重ねた大正琴連盟。こんな時だからこそ今出来ることはやるべき、と気持ちは青春です。遅ればせながらの選曲、そして練習でした。

換気やマスクといった感染症対策を徹底し、演奏会を開催しました。練習時間も思うようにとれませんでしたが、お越しいただく皆様に少しでも喜んでいただけるよう、会員一同心を込めて一生懸命演奏しました。多くの皆様に支えられながら、時間の制限もある中で、今回も無事に演奏会を終えることができました。

三密の回避を強いられ、楽しみにしていたコミュニケーションも遠のき、閉塞感がますます漂うばかりです。そんな世相にも、大正琴はささや

かな安らぎをもたらしてくれました。

音楽は「心の薬」といわれおられます。「好きな音楽は生きる力を引き出して、身体の不具合をも治癒する」とは権威ある医師の言葉です。

大正琴に出会えたことは本当に幸せです。皆さんも私達と一緒に楽しんでみませんか。いつでもウエルカムです。

秋の風
友の奏でる 大正琴の音の
清しく聞ゆ 熊野古道



万全を期して開催した大正琴演奏会

今こそ、夢と希望を届けたい

松舞踊村山塾 田中正信

快晴に恵まれて

待望の発表会……その日は雲ひとつない快晴に恵まれました。会場前には、松舞踊の幟旗が空に泳ぎ、祝つてくれているようでした。

苦渋の決断

私達を取り巻く環境……新型コロナウイルスの蔓延によって、未曾有の危機に晒されています。そんな中で、三密を避けて発表会ができるのだろうか。いろいろと悩みましたが、二つの大きな目標から開催することになりました。

一つは、コロナ禍によって、ややともすると人の心は折れそうになってしまいます。しかし、どんなに苦しくとも、歌や踊りによって人の心は癒され、希望が湧いてきます。こんな時代だからこそ、多くの人に「夢と希望」を送りたい……。会員の強い気持ちがありました。もう一つは、松としてはる先生・松ゆうか先生の指導のもと、懸命に稽古に励んできた成果を、多くのファンに観ていただきたいという熱い思いであります。



小規模でも盛況だった股旅舞踊発表会

規模を縮小しての開催

会場を例年の大ホールから小ホールに変更しました。三密を避けるべく、一二六名の方をご招待しての「ミニ発表会」です。

観客の反響

多くの方から「踊り手と観客のイキがピッタリ、熱気と興奮に包まれた素晴らしい舞台だった」「コロナ禍にあつて、勇気と希望をいただきました」等の言葉をいただきました。

おわりに

我が村山市は、優れた芸術・文化の里です。村山市芸文協の一層の飛躍・発展を心から祈念いたします。

コロナ禍で感じた演劇の力

劇団赤ひげ 浅野目 瑞季

「コロナ禍でも赤ひげの公演をなんとかやれないだろうか」

団員たちの強い希望により公演に向けての活動が始まったことは、外に出かける機会も減りなんとなくもやもやとした生活を送っていた私にとって久しぶりの明るい出来事でした。

今回は対面での演技を避ける方針により、朗読劇を行うことになりました。入団五年目になりますが、この形式での公演は初めて。最初は「手元に台本があるのだからセリフも覚えなくていいし気楽に

やっていたらいいだろう」と考えていましたが、実際にやってみると思いのほか難しい。いつもならば大きく動いて表現できるところをセリフや表情のみで表現しなければならず、さらに常に正面を向いての演技となったため、他の役者の様子や距離感も掴みづらいのです。初めての経験に不安も大きく、緊張で押しつぶされそうになったときもありました。

大変な状況下ではありましたが、無事に舞台を完成させ、

皆さんに届けられたことは私にとって大きな力となりました。これからも皆さんに力を与えていけるような舞台を作っていきたいと思えます。



初挑戦の朗読劇「星降る夜の彼方には」

今回の作品展



繊細な作品が並んだ暮点焼作品展



温かい作品が並んだ手芸作品展



立派な枝ぶりを披露した盆栽展

新たないけばな展を願って

村山市華道連盟 大場 ひろみ

令和二年は新型コロナウイルスの感染拡大に振り回され、いけばなもその影響を受けました。日頃の鍛錬発表の場である「いけばな展」を開催することは叶いませんでした。

いけばなは会場で素材を見つめながら作品を完成させます。そして鑑賞する方はいけばな作品と静かに対話するようにご覧ください。ですから、どうしても密にならざるを得ないのです。年度当初

は、時間差でいけ込みしようか、来場者を制限しつつ案内のようですが、日を追うごとに、いけばな展が感染源になつてはならないという思いが強まり、今回の開催を断念しました。

令和元年の県華道文化協会と



コロナ禍での開幕式を彩る

の合同いけばな展が、今思うと夢のようです。令和三年はコロナ禍が終息に向かい、いけ手も来場者も新たな気持ちでのびのびと心よりいけばなを楽しむことができるように願っております。

いぶき

日本舞踊若三会 若柳 一三睦

すべての行事がコロナにて中止、心が折れそうな時期がありました。私達は負けてしまったのでしょうか。亡き師匠は「村山から古典をなくさないように、年に一度だけでも日本の素晴らしい古典舞踊を観てもらおうのよ」が口癖でした。長唄、清元、常盤津、

義太夫、大和楽等……。しかし、今の時代は受け入れてもられないようです。古典舞踊は、人の振りを見て覚え、何

か月もかけて自分の振りにし、曲を覚えて自分なりに感じて舞い、その舞いが人に感動を与える。本当に難しいことです。

三年に一度の直派の舞踊会、副理事長の清元「山姥」の舞は涙が止まらないほどでした。あのように舞ってみたいと思うのですが、あの表現の素晴らしさはもう観ることができません。昨年五月に旅立たれてしまった。残念！悔しい！



国立大劇場での清元（2016年）

現在、若三会の会員は八名だけ。古典の継承とまではいかないが、もう少し頑張ってみたいと思うこの頃です。

どんな時も「一服どうぞ」

村山市茶道連盟 小松 千恵子

NHKお正月番組「ライジング若沖」をご覧になった方も多くかと存じます。ドラマに登場した人物、売茶翁が煎茶道の元祖といわれております。煎茶道は世の中が平和で穏やかな時代に盛んになるといわれております。江戸時代の元禄期や昭和元禄といわれた高度成長期など……。

昨年、私たち山形支部の活動は新型コロナウイルスの影響ですべて中止となりましたが、例年は会員を三班にわけ、一班は席主をつとめ、残りの班は客となつて亭主側の趣向をくんで楽しんでおります。その内容は一冊のテキストにまとめられ、支部独自の貴重な資料となつております。

昨今は会議の席や日常生活にペットボトルのお茶を飲まれる方が増えてまいりました。お茶の成分が身体に良いと健康ブームにもなつております。今こそ本物のお茶を楽しみたいではないでしょうか。急須から注がれる香り高く味わい深いお茶は、身体を温め、心まで豊かに和ませてくれます。茶の木は中国から渡り、奈

良・平安時代には薬として、ごく一部の upper 階級に愛飲されました。江戸時代、永谷宗園により案出され、今日一般に飲まれている日本茶（抹茶）ができました。お茶の種類も玉露、煎茶、番茶、ほうじ茶、紅茶とありますが、各々製法も異なります。また、季節により淹れ方も異なり、夏には冷茶となります。

どんな時にも「一服どうぞ」の精神は、人間関係を豊かにし、会話が弾み笑顔になれるように思います。どのような世の中においても、絶えず事なく続いてほしいと願っております。



大切にされる煎茶道の茶器たち

村山三曲協会の歴史に思う

村山三曲協会 齋藤 幸一

村山三曲協会発足以来三十有余年続けてきた公演を、新型コロナウイルスにより断念せざるを得なかった令和二年度でした。この機会に、村山三曲協会の歴史を振り返ってみたいと思います。なお、来年度こそ、公演を再開出来ることを願うばかりです。

〈前期〉第一～十四回
この期間は留場先生の人脈により、いろんな企画をされていきました。毎回出演を頂きました西郷児童合唱団とのコラボ。第五回公演では、楯岡出身の箏曲演奏家・吉岡絃子先生、尺八演奏家・宮田耕八郎先生、鳴物演奏家・藤舎清祐先生等、国内外で活躍なさっている各先生方を迎えてのステージを開催しました。

第十回公演では今は亡き人間国宝・山本邦山先生を迎え、また芸文協の各団体・太鼓やコーラスとのコラボで華やかなステージが繰り広げられました。この間、松念寺の本堂をお借りしての月見演奏会等も行い、遠藤ご住職による小泉八雲『耳なし芳一』の口演等も行うほか、葉山中学校の



盛り上がった30周年記念演奏会 (2018年)

生徒にも箏・尺八での出演を頂き、心に残る期間でした。

〈後期〉第十五～三十一回
この期間、十五回から十九回迄は松念寺の本堂を会場に、以降市民会館大ホールにて開催。月見演奏会に引き続き、遠藤ご住職による小泉八雲・芥川龍之介の小説の口演等。また第二十回、第三十回公演では詩吟・書道・華道・茶道等、芸文協の各団体にも協力を頂き、盛大に華やかに行うことができました。

コロナ時代

村山市美術連盟 板垣 雅一

二〇二〇年は、新型コロナウイルスの影響で四月に緊急事態宣言が発令されて以降、県内も「コロナ時代」の始まりとなりました。

外出自粛、三密の回避、消毒手洗い、マスク着用と生活様式は一変しました。美術連盟も総会が中止となり油絵教室も休止、県美展も中止と決まり、絵を描く意欲を無くしたという仲間もありました。秋頃にはコロナも収束すると

思っていました。会場設置等での感染リスクが心配され、秋の芸術祭美術展も中止せざるを得ませんでした。

そんな中、美術連盟の活動として行えたのが最上川美術館での会員の小品展です。唯一の展覧会となりましたが、静物画、風景画と力作が出揃いました。

コロナ時代において、絵を描くということは三密を回避できる活動です。油絵教室に

心のこもった作品

村山市書道会 青柳 春城

村山市書道会は各流派の様々な特徴を持った書体の会員、四三名で活動しております。主な活動は、六月に東沢バラ公園内で行う『筆供養』と、芸術祭期間中に市民会館で開催する『書道展』『書の色紙展・子ども書の色紙展』です。会員に限らず、一般の皆様も大歓迎です。

書道展等の全国展や、県総合書道展・県民ふれあい書道展等の中で切磋琢磨しながら腕を磨いております。今年度は軒並み中止か延期となりましたが、各会員は目標を失わないよう、工夫を凝らして書作に勤しんでおります。

多くの会員は、日展・毎日

今後、感染防止に向けた様々な策が功を奏し、展覧会などが実施できれば、二年分の『心のこもった作品群』を、これまでとは違ったやり方で



最上川美術館での小品展



切磋琢磨し、練成会の様子 (2019年)

お見せしたいと考えておりますので宜しくお願ひします。

芸術文化功労者表彰



村山市芸術祭開幕式の席上、令和2年度芸術文化功労者が表彰されました。誠にありがとうございます。(10月30日市民会館)

【栄光章】

高橋 賢治 (後列中央)
(戸沢・フォトクラブ)
=そば花まつりフォトコンテスト
最優秀賞

【感謝状】

湯口 堅正 (後列右)
(楯岡・華道連盟)
宇野 大子 (前列左)
(大久保・華道連盟)
五十鈴川 元子 (前列右)
(大久保・華道連盟)
小山 潤一 (後列左)
(大久保・杉島諏訪太鼓保存会)

注目!

日本画家

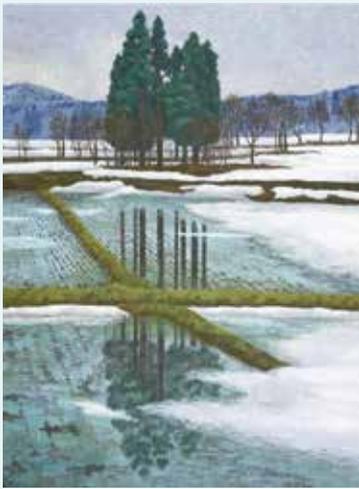
藤田八重子 さん

日本画に興味を持ち、彩画堂の日本画教室で川合啓史先生に師事いたしました。最初の頃は岩絵具と膠(にわか)になかなか馴染めず、悪戦苦闘の日々でした。

展示会に出展するようになつてからは、題材探しにも悩まされ、スケッチには遠方まで出かけたりしました。日本画を始めたことを後悔したり挫折したりで二十年を過ぎた頃の三月末、偶然通りかかった大石田の風景に思わず車を止めました。道路脇の田圃の雪解けが半

分ほどまで進み、鏡のように澄みきった水面に杉の木立が長い影を映していました。清閑な中の凜とした佇まいに心が浄化されていくようでした。この思いを「東風吹く頃」という題名で作品にしました。

これを機にふるさとの山、川、空、風、湯野沢の草、木、鳥、虫の声に耳を澄ませるようになりました。これ



東風吹く頃 2004年

からも身近な自然と対話しながら、岩絵具を通して日々の暮らしを表現していきたいと思っています。昨年是最上川美術館で日本画展を開催させていただきましたが、日本画に関心を持ってくだされば嬉しく思います。(村山市湯野沢在住)

令和2年度 村山市芸術協のうごき

4・15	会計監査委
4・16	三役幹事会
4・24	理事会(書面)
5・19	総会(書面)
6・19	理事会
8・20	三役幹事会
9・19	四役会
9・20	山形交響楽団 ユ
9・25	アタウンコンサート
10・8	村山公演(後援)
10・21	芸術祭検討委員会
10・30	芸術文化功労者選考委員会
10・31	三役幹事会
11・22	芸術祭検討委員会
11・22	村山市芸術祭開幕式・功労者表彰式
11・22	松舞踊村山塾ミニニ発表会(後援)
12・7	北村山芸術協懇談会(書面)
12・11	芸文だより編集委員会
1・26	芸文だより編集委員会
2・8	理事会

村山市
芸術協
公式HP



あとがき

この冬は、コロナ禍と豪雪に見舞われましたが、今年も「芸文だより」第三十八号をお届けすることができました。今まで経験したことのない未知のウイルスという試練に、日本中、世界中の人類が試されているのかもしれない。今号は、コロナ禍を乗り越え、元気に活動している団体の様子と普段の活動紹介。注目コーナーでは、その分野で活躍する人にスポットを当てました。文化芸術の新たな広がりに、希望が持てる編集を心がけました。(編集委員長 西塚 裕樹)

芸文だより編集委員

- 西塚 裕樹 (村山市美術連盟)
- 齋藤 トヨ子 (村山市茶道連盟)
- 宇野 大子 (村山市華道連盟)
- 鈴木 利和 (村山三曲協会)
- 後藤 敬子 (村山市大正琴連盟)